

変えなくては! 次では遅い?

この3重点政策でGO!

やることやらずに12年終わり?

「新都市には自然・歴史が豊富、新東名が開通して交通の便も良い」と考えているだけでは、何も変わりません。消滅可能性都市の出口は見えていますか? 合併12年の結果が出ています。もう、変えるしかないのでは?

重点政策で市民の協働の方向を

効率的なまちづくりは、市民、議会、行政が一つの方向で協同する必要があります。 「あれもこれもやりたくない」ではなく、重点を決めて、市民の力を集中するしかありません。

私は、提案します

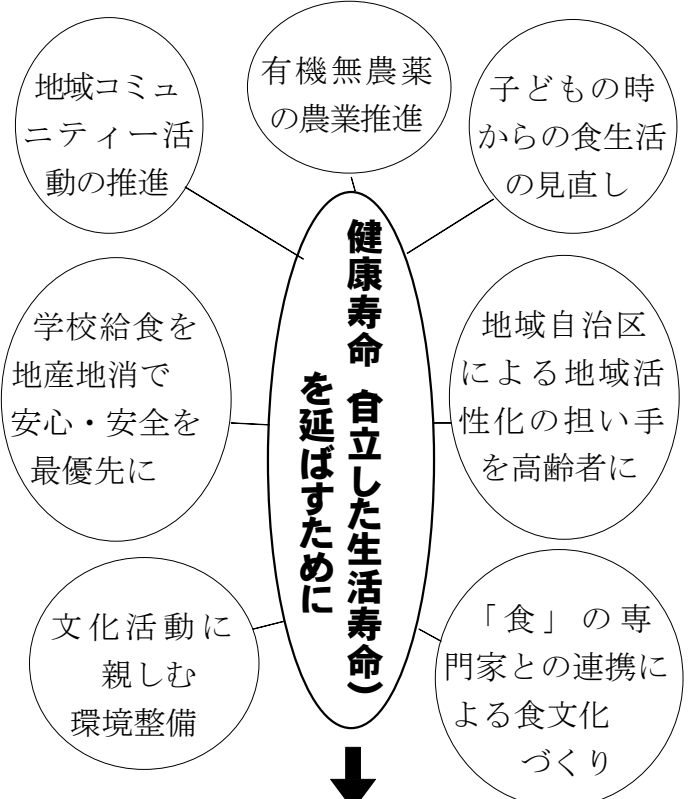
【3重点政策】

① 健康寿命日本一のまちづくり

② 歴史を活かしたまちづくり

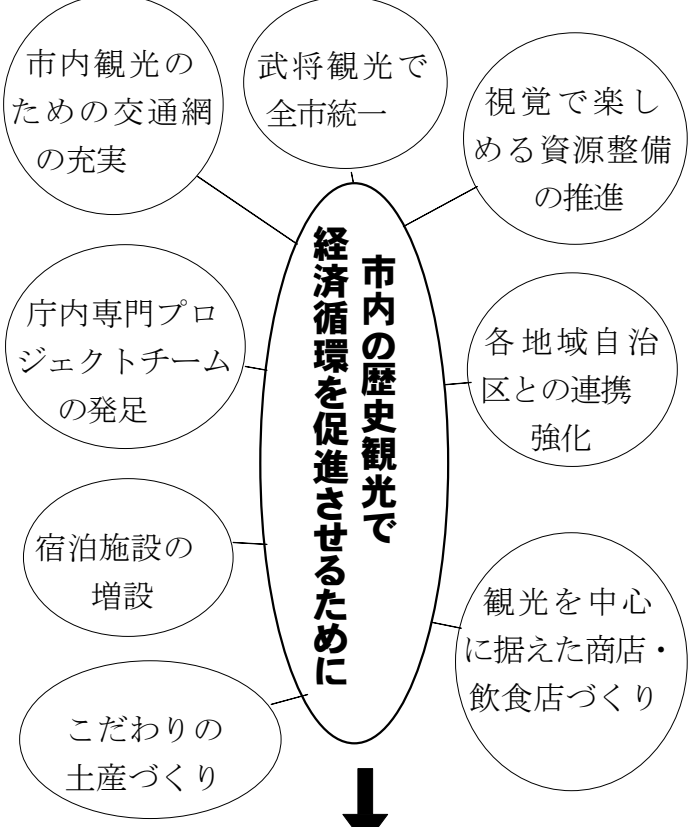
③ エネルギー自給自足のまちづくり

① 健康寿命日本一のまちづくり



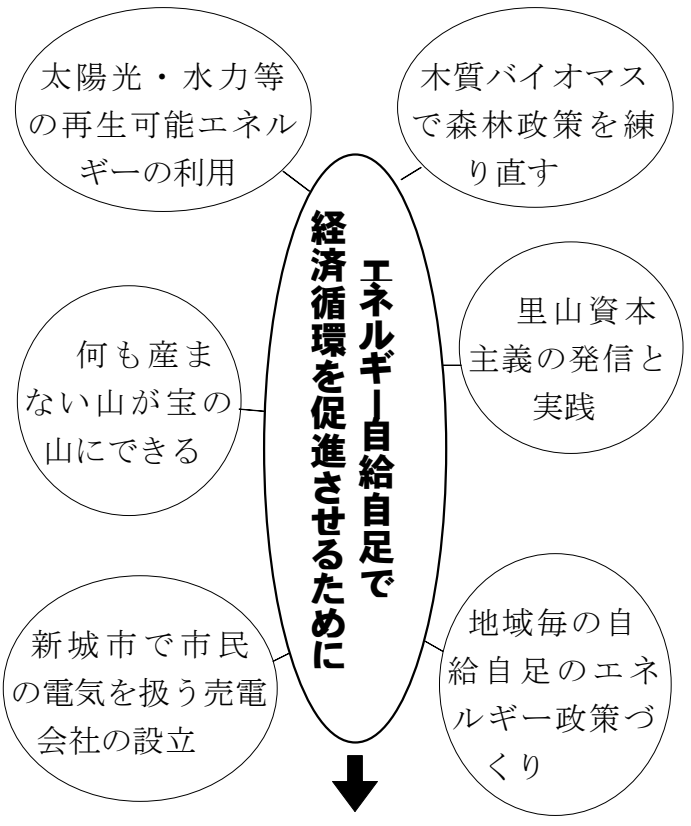
- ◆ 地元産業が活性化→有機農業の先進地。
→生涯現役の職場づくり。
→特産品の開発促進。
- ◆ 医療費・介護費用が低減→財源に余裕。
- ◆ 元気な高齢者が地域で買物→商店街活性。
- ◆ 地域自治区が元気に活動→元気な地域づくり。

② 歴史を活かしたまちづくり



- ◆ 観光産業が職場を作る→地域でお金が循環。
- ◆ 新城が話題に→歴史以外の資源でも活性化。
- ◆ 田舎に人が集まる→若者の地元への愛着増。
→市外からの流入人口増。
- ◆ 地域自治区が元気に活動→元気な地域づくり。

③ エネルギー自給自足のまちづくり



- ◆ 森林が宝の山に→雇用増と自然環境保護。
- ◆ エネルギー政策が観光産業に
→市外からの新都市をめざす流れを増やす。
- ◆ 地域内でエネルギー経済循環が実現。
→利益を市民サービスへ還元。
- ◆ 地域自治区が元気に活動→元気な地域づくり。

市政改革の要は、市長・職員の意識改革！？

市民に「自治」を求めるのなら、行政・議会が率先垂範するのが当然です！？

時代の流れを読む

- ◆時代は「農村回帰」で動いている。農山村の価値を理解し、農山村の資源を活かす職員づくり。
- ◆「真の豊かさ」を実践する自治体づくり。

財源をつくる

- ◆業務の効率化→第三者組織に評価を依頼。
- ◆職員数の適正化→業務の見直し実施。
→地域自治区との責任の明確化。
- ◆残業ゼロの追求→1億円余の人件費削減。
- ◆市民公開の予算編成。市民目線で無駄を排除。

決断と実行

- ◆市長直属の政策組織を編成。→日常的な情報収集と政策立案。
→政策の実行・検証。
- ◆組織の簡素化→決断の迅速化。
- ◆費用対効果で事業の仕分け。



未来を語る職員づくり

- ◆新都市の未来を語る職員の育成。
→将来を先取りする自治体づくり。
- ◆地域に出ていく職員の育成。
→市民の生の声を常に把握。
- ◆専門性・情報収集能力の向上。
- ◆「No」と言わない職員気風の醸成。

市民との協同

- ◆地域自治区の自立の促進。
- ◆地域自治区と行政との責任範囲の明確化。
- ◆市民組織を育成し、行政との協働の促進。
- ◆居住地区で住民との協働を進める職員づくり。
- ◆市民との情報共有→出前講座の充実。

市民に信頼される議会をつくる

- ◆名実ともに二元代表制の実現。市長と議会が切磋琢磨して市政進展。
- ◆議会・常任委員会毎の年度活動実績報告に基づく予算システム化。
- ◆議員視察の市民報告会の実施。市民が費用対効果を判断。
- ◆議会モニター制度の創設。→市民自ら議会をチェック。
- ◆議会基本条例の継続的な充実→市民と共に議会基本条例の到達点の確認。



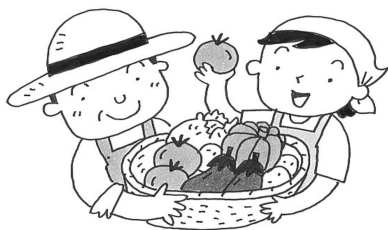
政策の転換で生み出した財源で子育て支援！

補助金に頼っているだけでは何も変わらない！自ら財源を作る覚悟が不可欠！

白井みちひろ

【略歴】

- ◆生年月日 昭和32年9月18日生まれ
- ◆学歴 千郷小・中、新城東高校、三重大学工学部
- ◆職歴 機械製作メーカーに19年間勤務
(議員立候補のために退職)
- ◆市会議員 平成11年から21年、平成25年から29年、計14年間。
- ◆市長選立候補 平成21年11月
新庁舎住民投票
多くの市民との協同で実現。「絶対見直しはしない」と言っていた市長・議会が政策を変更。
- ◆有機栽培・自然栽培の実践。
- ◆産直の店。有機無農薬栽培仲間とこだわりの産直の店開設。
- ◆歴史の見えるまちづくり。「笛の盆」により長篠城址、鳳来寺山、野田城址で活動中。
- ◆一言
今度こそ変えなくては、次では遅い。そんな思いで取組中。



白井倫啓、議員14年
経験を活かします！